

7月の行事報告 July

第28回 中原寺ファミリーパーティーに参加して 7月27日(日)  
第一部/13時45分～ 第二部/13時45分～

台風6号の影響で、心配していた天気も回復して、夏空のもと第28回中原寺ファミリーパーティーが開催されました。

不安定なお天気のなか130名を越える参加者が集い、交流を深め楽しい時を過ごしました。少子高齢化により子ども達の参加が年々少なくなっていることが気になるところです。

ところで、去年まで第2会場の設営に使用していた大型テント他、組立式のテントをやめて、今年から新たに簡便に設営や後方付けができるようになりました。タープテント4張と木製丸イス20脚、テーブル等を購入し、より充実した会場を作ることが出来ました。これまでは前日に集まって設営の準備をしてきましたが、今回より当日の作業でも十分設営できるようになり、スタッフの負担軽減をはかる事ができたと思います。

今回初めて、第二部の屋外会場にも参加しました。行き届いた会場で、設営のご苦労を感じました。ビールなど酒類も豊富で、食べ物も盛り沢山で有難かったです。

屋外会場では、4人席に着き、正面の席に赤ちゃんをベビーカーに乗せた若いお父さんがいました。婦人会のスタッフの方が、おでんを差し上げて、おもてなしをしていました。知り合いの方もいなく、親子だけの参加のようでした。門徒の方かもしくはご近所の方か分かりませんでした。

私は、30分後ぐらいに、御代わりのビール買って戻ると、親子はすでにいませんでした。今、感じているのは、何故あの若

聞法会館で開催した第一部は、初めに全国で8人しかいないという紙切り芸の「三遊亭絵馬」さんが登場し、客席から出されたお題をお話交えながら即興で応える見事なハサミ裁きに客席から感嘆の声と大きな拍手が沸き上がっていました。

次に登場した声帯模写の「丸山おさむ」さんは歌まねジャンルで、初めての文化芸術祭優秀賞を受賞され、その卓越した話術と歌唱力で観客を魅了していました。

オープニングで聞いた霧島昇の「誰か故郷を想わざる」の歌声に想わず懐かしさがこみ上げて、懐メロ好きの私にはたまらないひとときでした。(福島 道宏 記)

い親子は知り合いもいないお寺のファミリーパーティーに来たのかです。何かを求めてお寺のパーティーに来たのではないのです。その時、私は若い父親にひと声も掛けず、まったくおもてなしをしませんでしたので、悔いが残っています。

せっかく来てくれた、宗教とは縁が薄い一般の方かもしれないのに。もしかしたら仏教に興味をもって来てくれた方かもしれないのに。仏教に興味があっても、ご縁のない一般の人が山門をくぐるのは、大きな勇気がいります。私も手を引いてもらい、背中を押していただき、ご縁をいただきました。今度は私が、手を引き、背中を押す番です。(山根 幹雄 記)



8月の行事報告 August

第28回 子ども合宿に参加して 8月24日(土)～25日(日)

昨年は千葉組の子ども合宿があった関係で1年の休養期間を経て、8月24～25日に子ども合宿が開催されました。

前回までは、ご門徒さんのお子さんからの応募があっても、定員を超えてしまうということで、お断りしてしまうということもありました。しかし、昨年休止したこと、そしてホームページでの開催告知をやめたことにより、参加をご希望されるお檀家さんのお子さんみんなを受け入れることができました。

そういった中で開催された13名での子ども合宿でしたが、壮年会・婦人会・千葉商科大学のボランティアサークルの皆さん・中学生以上の子ども合宿卒業生の皆さんのお手伝いもあり、安全にまたとても楽しい合宿にすることができました。

特に、ゲーム大会の司会など積極的にお手伝いくださった、千葉商科大学ボランティアサークルの皆さんとのご縁を作ってくくださった坊守さんには、とても感謝しております。

住職さんと坊守さんの思いとそれに基づくあらたな取り組みや活動が、ここでもしっかりと形になり始めているなど実感いたしました。来年からは、私の子供は中学生以上のお手伝いでの参加になるのですが、親族の子供達にも是非参加させたいと思います。

(星野 修一郎 記)



感話  
シリーズ-28

～ご旧跡参拝旅行～  
【川越の光西寺と小江戸の町散策の旅】

令和元年6月18日(火)

旅行案内の「ご法悦を通じてお互いの親睦を深めることを目的に」という今年の日帰り旅行について、個人的に感じたお寺と旅行の感想を以下ご報告します。

さて今年の旅行は、体調が悪い、家族の都合、また仕事の都合等々で行きたくとも行けなかった方が多かったようですが、総勢35人の少数精鋭は中原寺の代表団のような気分でバスに乗り込みました。お参り前ですでお酒もジューツと我慢して、一路最初の訪問先の川越の光西寺さんに向かいました。

このお寺は前住職が毎年報恩講のご講師をされていることもあり、中原寺とは公私共に仲が良く、近藤住職、坊守さん、婦人会の皆さんに温かくお迎え頂きました。お参りは、讃仏偈のお勤めに続いて、近藤ご住職のご法話を頂きました。

こころとは いかなるものを いうならん 墨絵に書きし 松風の音

西光寺さんお参りの目的を象徴するこの和歌“こころとは”をご紹介頂きました。蓮如上人は、頓智の一休さん(一休宗純・禅宗)とは宗派を離れて仲が良かったそうですが、その中の逸話を和歌を通じてお聞きました。

「皆さん、“こころ”はどこにあると思いますか?」がまず近藤ご住職の問いでした。ハート(心臓)、考える頭、そして体の中にある魂…さて何れでしょうか?

ヒントは上記の歌の“松風の音”で、それも“墨絵に書いた”絵の中ということで、そのこころは、“形の見えないはたらき”の南無阿弥陀仏と頂きました。

近藤ご住職はまだ若い方でしたが、数年前に倒れたそうで、座るより立ったままの法話が楽といわれるほどに回復された由。阿弥陀様と共にのご信心が回復力の原動力と頂きました。「彩の里いも恋」という品名に相応しいおいしいお茶菓子をご馳走になり、帰りのお土産に川越名産で地元限定販売のイモ煎餅と門徒さん手編みの自然に優しい毛糸雑巾と、“こころ”のこもったおもてなしを頂き、第一目的の光西寺さんを後にしました。

昼食には懐石料理を頂き、小江戸の町を散策して思い思いにお土産を買い、最後の目的地の喜多院を拝観しました。この寺は徳川家康の信頼の厚かった天台僧正も住職をした徳川家の菩提寺ともいえる寺で、意外だったのはこの寺は天台宗でしたが、客殿には阿弥陀様の座像を祀っていました。そして隣の中院の門は、「天台宗星野山」と「日蓮上人傳法灌頂之寺」と2つの門が建っていて、いわば宗派は天台宗と日蓮宗と浄土宗が一緒という珍しいお寺さんでした。

最後にバス旅行のメは恒例の石井さん名司会のビンゴゲームでした。リーチの一番は何と驚きの住職、前住職が揃ってのビンゴです。これは現世利益とは思われないので、裏に仕掛けかなと疑った私は男子で最後まで残りました。司会者の念仏が足りないとの叱咤激励にも拘わらず、最後の最後までリーチもせずに結局は残り物分配の景品を頂いた次第です。(本当はお浄土と一緒に順位なしの公平な景品だったようですよ)

以上、簡単ですが今年も楽しかったので、来年はもっと沢山の参加でバスの中が念仏溢れる旅行を期待したいと思います。(入月 正 記)

